

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	道路新設改良事業		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	利用者(町内外)		
事業概要	平成23年度	町道の改良 幸町団地内道路2号、南2条通		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支出金	道 支出金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	72,614	63,458				9,156
平成23年度	51,246	18,700				32,546

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績		目 的 達 成 度	
平成22年度	改良総延長	106,791m	改良率	58%
	舗装総延長	96,230m	舗装率	52%
平成23年度	改良総延長	107,530m	改良率	59%
	舗装総延長	96,753m	舗装率	53%

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	3
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	各所の利用度や緊急性等を十分に精査のうえ、計画的に実施すること。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	道路維持管理業務	主管課名	建設水道課
		事業主体	町
事業目的	対象・意図	道路の適正な維持管理	
事業概要	平成23年度	町道の維持管理(委託業務の監督、経理・契約事務等含む) 道路維持管理業務、道路舗装補修業務、道路区画線塗装業務、側溝清掃業務等	

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	21,196				1,816	19,380
平成23年度	32,269				1,701	30,568

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チェック項目	評 点
妥当性 ・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性 ・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効率性 ・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公平性 ・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	道路を適正に維持管理していく必要があるため、事業は現状継続とするが、今後、受託事業者との綿密な協議の上でより効率的な維持管理を検討するものとする。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	除排雪事業	主管課名	建設水道課
		事業主体	町
事業目的	対象・意図	町民、町外利用者	
事業概要	平成23年度	町道の除排雪業務(委託業務の監督、経理・契約事務等を含む)	

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支出金	道 支出金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	94,109	11,200				82,909
平成23年度	117,347	7,600			1,354	108,393

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥 当 性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有 効 性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効 率 性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公 平 性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	事業は現状継続とするが、今後、受託事業者との綿密な協議の上で、より効果的、効率的な除排雪となるよう検討するものとする。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	街路灯取替補修事業	主管課名	建設水道課
		事業主体	町
事業目的	対象・意図	町民等の利用者の安全を確保するもの	
事業概要	平成23年度	街路灯の取替(市街地区一円:21基)	

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支出金	道 支出金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	29,725	14,750				14,975
平成23年度	13,944	11,800				2,144

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	利用者の安全確保の観点から、計画的に取替を行なうこと。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	河川管理事業	主管課名	建設水道課
		事業主体	町
事業目的	対象・意図	町民の生活環境を護るための河川の適正な維持管理	
事業概要	平成23年度		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	1,578		406		17	1,155
平成23年度	4,063		379		16	3,668

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥 当 性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有 効 性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効 率 性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公 平 性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	河川を適正に管理することは、河川管理者の責務であり現状継続であるが、将来的に全体的な見直しが必要と考えられ、検討すること。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	北海道道路整備促進協会負担金		主管課名	建設水道課
			事業主体	他
事業目的	対象・意図	当該団体の活動経費について、構成組織として負担するもの		
事業概要	平成23年度	道路橋梁の整備に関する企画調査、改良補修事業の促進等		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	17					17
平成23年度	18					18

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥 当 性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	3
有 効 性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効 率 性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公 平 性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	当該団体が実施する道路橋梁整備に係る企画調査、改良補修事業の促進等は、住民の平常時及び緊急時の移動手段を確保するために必要不可欠なものであるため、継続する。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	北海道治水砂防海岸事業促進同盟負担金		主管課名	建設水道課
			事業主体	他
事業目的	対象・意図	当該団体の活動経費について、構成組織として負担するもの		
事業概要	平成23年度	治水、砂防及び海岸施設等の整備に関する要望		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	5					5
平成23年度	5					5

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥 当 性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	3
有 効 性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効 率 性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公 平 性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	当該団体が実施する治水及び海岸施設等の整備に関する要望等は、地域防災(水害、土砂災害、津波等の災害防止)事業を促進するため必要であり、継続する。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	北海道災害復旧促進協会負担金		主管課名	建設水道課
			事業主体	他
事業目的	対象・意図	当該団体の活動経費について、構成組織として負担するもの		
事業概要	平成23年度	河川、道路、橋梁等の災害復旧事業の促進		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	5					5
平成23年度	116					116

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

	チ ェ ッ ク 項 目	評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	3
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	当該団体による災害復旧事業の促進啓発(全国の災害状況やその復旧方法等の啓発)は、本町職員の災害対応に係る知識の向上に資することから、継続する。



平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	北海道河川環境整備促進協議会負担金		主管課名	建設水道課
			事業主体	他
事業目的	対象・意図	当該団体の活動経費について、構成組織として負担するもの		
事業概要	平成23年度	河川整備に関する要望等		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	8					8
平成23年度	8					8

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥 当 性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	3
有 効 性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効 率 性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公 平 性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	当該団体への加入を通じ、地域資源である河川の整備を促進することは、防災や生活環境の向上にもつながることから、継続する。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	水洗便所改造等補助金		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	快適な生活環境の提供と環境保全のため下水道への接続率向上を目的に助成制度を実施		
事業概要	平成23年度	下水道供用開始後3年以内の排水設備工事に対して補助金を交付		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	1,180					1,180
平成23年度	550					550

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績		目 的 達 成 度	
平成22年度	制度利用件数	7件	水洗化率	51.00%
平成23年度	制度利用件数	6件	水洗化率	52.50%

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

	チ ャ ッ ク 項 目	評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	3
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	2
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
拡大重点化	現状に見合った、より有効な助成制度とするよう手法を検討すること。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	水洗便所改造等貸付金利子補給金		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	快適な生活環境の提供と環境保全のため下水道接続率の向上を目的に排水設備工事資金貸付金のあっせん及び利子補給を実施		
事業概要	平成23年度	排水設備工事資金貸付金の利子を補填		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	0					
平成23年度	0					

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績		目 的 達 成 度	
平成22年度	制度利用件数	0件	水洗化率	51.00%
平成23年度	制度利用件数	0件	水洗化率	52.50%

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	3
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
拡大重点化	現状に見合った、より有効な助成制度とするよう手法を検討すること。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	下水道施設管理事業(浄化センター・ポンプ場)		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	安全かつ安定した下水道施設の運転管理		
事業概要	平成23年度	施設の運転管理状況の把握 委託業者への運転管理委託料の支出 施設管理及び水質管理に必要な維持管理費の支出		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支出金	道 支出金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	49,662					49,662
平成23年度	50,654					50,654

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	公共水域の水質保全及び安全かつ安定した施設の運転管理のため、今後とも必要不可欠な事業であるため、現状継続とする。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	処理施設更新事業(浄化センター・ポンプ場)		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	常に良好な状態での下水道施設の運転を行うため、各種機器類の点検及び修繕を行う。		
事業概要	平成23年度	経年により劣化した各種機器類の修繕及び保守点検。		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	10,686					10,686
平成23年度	2,325					2,325

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	計画に沿った修繕等が必要であり、現状継続とする。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	下水道建設事業	主管課名	建設水道課
		事業主体	町
事業目的	対象・意図	快適な生活環境の提供と環境保全	
事業概要	平成23年度	汚水管渠及び雨水管渠の布設	

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支出金	道 支出金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	120,081	49,820		55,200		15,061
平成23年度	108,468	43,864		53,300		11,304

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績		目 的 達 成 度	
平成22年度	行政人口	8,152人	整備済み割合	80.10%
	整備済み人口	6,531人		
平成23年度	行政人口	7,936人	整備済み割合	82.50%
	整備済み人口	6,546人		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	都市計画法事業計画認可及び下水道法事業計画認可に基づき、下水道建設事業を継続していくこと。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	認可変更事業	主管課名	建設水道課
		事業主体	町
事業目的	対象・意図	快適な生活環境の提供と環境保全のための下水道建設事業	
事業概要	平成23年度	認可変更に係る道との協議旅費 認可変更業務委託料の支出	

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	72					72
平成23年度	24					24

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績		目 的 達 成 度	
平成22年度	全体計画処理面積	315㎡	処理割合	98.70%
	認可済予定処理面積	311㎡		
平成23年度	全体計画処理面積	315㎡	処理割合	98.70%
	認可済予定処理面積	311㎡		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	都市計画法及び下水道法に基づく事業であり、認可区域(変更)を拡大しながら全体計画に向かって事業を進めること。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	日本下水道協会負担金	主管課名	建設水道課
		事業主体	町
事業目的	対象・意図	下水道整備の普及と健全な発展	
事業概要	平成23年度	当協会は、下水道事業促進のための予算確保や必要施策の実現に向けての活動や、下水道事業に関する最先端の取組事例の紹介や技術指導・事務講習会等を開催している団体であり、当町の会員となり負担金を支出している。	

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	68					68
平成23年度	62					62

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チェック項目	評 点
妥当性 ・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性 ・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性 ・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性 ・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	下水道事業促進のための予算確保や必要施策の実現に向けての活動や、講習会等を開催している団体であり、下水道事業推進のため必要であることから、継続とする。



平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	北海道下水道協会負担金		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	下水道の普及と健全な発展		
事業概要	平成23年度	当協会は、日本下水道協会の北海道支部であり下水道に関する情報提供や他市町村との情報交換会議の開催、排水設備工事資格に関する業務を行っており町とも資格認定業務の協定を結んでいる。		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	30					30
平成23年度	30					30

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	下水道整備の普及と健全な発展のため、下水道に関する情報提供や資格関係の認定業務を取りまとめている団体であり、下水道事業推進のため必要であることから、継続とする。

## 平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

### 事業の概要

事務事業名	下水道施設長寿命化計画策定事業	主管課名	建設水道課
		事業主体	町
事業目的	対象・意図	下水道サービスを安定かつ増大する下水道施設を適正に管理し、施設の延命化、改築更新投資の平準化等施設の維持管理を計画的に進める。	
事業概要	平成23年度	平成23年度に策定済みの基本計画に基づき事業計画を策定	

### 事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	0					
平成23年度	10,185	5,092				5,093

### 事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

### 評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民や社会の要求に合致しているか</li> <li>・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】</li> <li>・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】</li> </ul>	<b>4</b>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の達成度はどの程度か【達成度合】</li> <li>・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】</li> </ul>	<b>4</b>
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】</li> <li>・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】</li> </ul>	<b>4</b>
公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受益者負担は適正か</li> <li>・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか</li> </ul>	<b>4</b>

### 評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
<b>現状継続</b>	社会資本整備総合交付金の対象事業として施設更新等を行う場合は下水道長寿命化計画の策定が必須条件のため必要な事業であり、継続とする。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	羽幌港補修事業		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	国から管理委託を受けている羽幌港の補修を実施することにより、利用者の安全と利便性の向上を図る。		
事業概要	平成23年度	羽幌港における国直轄港湾整備事業以外の港湾整備を必要に応じて実施。漁港区のエプロン改修、照明の改修等。		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	2,184					2,184
平成23年度	1,959					1,959

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績		目 的 達 成 度	
平成22年度	入港船舶数(羽幌港)	3,658隻		
	フェリー乗込人員(羽幌港)	16,659人		
	取扱貨物量(羽幌港)	76,400トン		
平成23年度	入港船舶数(羽幌港)	2,820隻		
	フェリー乗込人員(羽幌港)	16,756人		
	取扱貨物量(羽幌港)	80,568トン		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	羽幌港では港内狭隘という問題の解消に向け、中央埠頭の整備が国直轄港湾整備事業として実施されており、完成後は老朽化対策を中心とした国直轄整備が予定されている。このため、町としては国直轄整備以外の施設改修を中心に整備を実施する必要がある。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	焼尻港補修事業	主管課名	建設水道課
		事業主体	町
事業目的	対象・意図	国から管理委託を受けている焼尻港の補修を実施することにより、利用者の安全と利便性の向上を図る。	
事業概要	平成23年度	道路標識修繕 1件	

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	1,472					1,472
平成23年度	39					39

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度	入港船舶数(焼尻港)	1,623隻
	フェリー乗込人員(焼尻港)	10,159人
	取扱貨物量(焼尻港)	43,008トン
平成23年度	入港船舶数(焼尻港)	1,375隻
	フェリー乗込人員(焼尻港)	10,701人
	取扱貨物量(焼尻港)	40,884トン

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チェック項目	評 点
妥当性 ・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性 ・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性 ・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公平性 ・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	完成港のため、現状では港湾管理者が港湾の維持補修を行わなければならない、費用面から国直轄港湾整備を再開させるべく、港湾統合も視野に入れ関係機関との協議を継続する。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	天売港補修事業		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	国から管理委託を受けている天売港の補修を実施することにより、利用者の安全と利便性の向上を図る。		
事業概要	平成23年度	港内照明灯の設置及び改修		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支出金	道 支出金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	8,946	8,940				6
平成23年度	1,543					1,543

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績		目 的 達 成 度	
平成22年度	入港船舶数(天売港)	3,428隻		
	フェリー乗込人員(天売港)	10,710人		
	取扱貨物量(天売港)	39,134トン		
平成23年度	入港船舶数(天売港)	3,699隻		
	フェリー乗込人員(天売港)	10,588人		
	取扱貨物量(天売港)	35,613トン		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ャ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	完成港のため、現状では港湾管理者が港湾の維持補修を行わなければならない、費用面から国直轄港湾整備を再開させるべく、港湾統合も視野に入れ関係機関との協議を継続する。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	羽幌港、焼尻港、天売港及び福寿川浚渫事業		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	水底に砂等が堆積し、船舶の安全な航行の妨げとなるものを浚渫により取り除く。		
事業概要	平成23年度	必要に応じ浚渫を実施する。平成23年度は羽幌港。		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	6,174					6,174
平成23年度	4,620					4,620

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度	入港船舶数(3港合計)	6,174隻
平成23年度	入港船舶数(3港合計)	7,894隻

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チェック項目	評 点
妥当性 ・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性 ・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性 ・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性 ・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	今後も安全な航行、港湾利用のため、必要最低限の浚渫を行う必要があり現状継続とする。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	国直轄港湾整備事業(羽幌港)		主管課名	建設水道課
			事業主体	国
事業目的	対象・意図	沿岸漁業を営む漁業者の基地として、焼尻、天売と結ぶ生活航路の拠点として、漁業者、観光客及び町民が安全、快適に港湾を利用できるよう整備を行う。		
事業概要	平成23年度	岸壁(-5.0m)80m、岸壁(-5.0m)(耐震)87m、港湾施設用地(南)9,200㎡、航路(-5.0m)浚渫13,900㎡、泊地(-5.0m)浚渫47,250㎡、防波堤(北)200m、防波堤(西)(改良)210m		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	112,910			112,900		10
平成23年度	117,450			117,450		

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活動実績	目的達成度
平成22年度	入港船舶数(3港合計)	8,709隻
	フェリー乗込人員(3港合計)	37,528人
	取扱貨物量(3港合計)	158,542トン
平成23年度	入港船舶数(3港合計)	7,894隻
	フェリー乗込人員(3港合計)	38,045人
	取扱貨物量(3港合計)	157,065トン

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チェック項目	評点
妥当性 ・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性 ・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性 ・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性 ・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	地方港湾の整備については、町が整備計画をたてるものの、整備の事業主体は国である。管理者負担金の在り方については、国レベルでの検討が行われているが、現状では法令に定められている負担を行う必要があり、現状継続とする。



平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	物揚場発電機借上事業		主管課名	建設水道課
			事業主体	他
事業目的	対象・意図	港の利用率向上と地域への経済効果向上を図り、北るもい漁業協同組合ではイカ釣外来船の誘致を行っているが、漁船溜まりが狭隘のため地元船舶の一部を移動させている。移動先での船舶の必要な電力を確保するため発電機の借上げを実施している。		
事業概要	平成23年度	発電機借上料を利用者、漁協、町で3分の1ずつ負担するための補助。		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	56					56
平成23年度	27					27

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績		目 的 達 成 度	
平成22年度	発電機設置数	2基		
平成23年度	発電機設置数	1基		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	3
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	大型船のシフトが完了するまでには更なる港湾整備も必要になることから、当面は現状継続とする。



平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	北海道港湾協会負担金		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	日本港湾協会の下部組織として、港湾整備・振興・促進運動や製作研究事業、中央への陳情、要望活動を実施している。		
事業概要	平成23年度	国会議員等へ港湾整備の必要性を訴える要望活動や国家予算の獲得のための中央要望活動を行う。		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	545					545
平成23年度	537					537

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	3
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	当該団体(負担金支出先)は、北海道の港湾予算獲得のための行動を行っており、港湾振興施策として必要があるため、現状継続とする。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	北海道港湾振興団体連合会会費		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	北海道内の港湾を有する自治体が連携を密にし、港湾の振興を図る団体。		
事業概要	平成23年度	港湾海岸防災や港湾製作研究シンポジウムの開催。北海道港湾の現状や課題を中央に伝える行動を行う。		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	10					10
平成23年度	10					10

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度		
平成23年度		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	3
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	3
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	3
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	3

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	港湾振興のためには、当該団体への加入を通じ、北海道内の港湾を有する自治体との連携が必要であることから、現状継続とする。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	上水道量水器取替事業		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	上水道利用者に対し、計量法に基づく有効期限8年で定期的な量水器(水道メーター)の交換を行う。		
事業概要	平成23年度	量水器の交換 515個 21,158千円		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	7,964					7,964
平成23年度	21,158					21,158

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度	量水器交換	205件
平成23年度	量水器交換	515件

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

	チ ェ ッ ク 項 目	評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	量水器(水道メータ)は、計量法により特定計量器で有効期限が8年となっているため、計画的に交換することが必要であり、現状継続とする。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	簡易水道量水器取替事業		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	簡易水道利用者に対し、計量法に基づく有効期限8年で定期的な量水器(水道メーター)の交換を行う。		
事業概要	平成23年度	量水器の交換 55個 2,888千円		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	3,565					3,565
平成23年度	2,888					2,888

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績		目 的 達 成 度	
平成22年度	量水器交換	78件		
平成23年度	量水器交換	55件		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	量水器(水道メータ)は、計量法により特定計量器で有効期限が8年となっているため、計画的に交換する必要があり、現状継続とする。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	天売地区施設整備事業		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	天売地区簡易水道において安全でおいしい水の安定的な供給のために、施設の健全な維持をはかる。		
事業概要	平成23年度	天売地区簡易水道施設整備 貯水池改修 1,144千円、電磁流量計取替 4,421千円		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	2,342					2,342
平成23年度	5,565					5,565

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度	天売地区給水戸数	179件
平成23年度	天売地区給水戸数	177件

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チェック項目	評 点
妥当性 ・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性 ・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性 ・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性 ・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	水道水の安全で安定的な供給のため、今後も施設の健全な維持に努めること。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	焼尻地区施設整備事業		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	焼尻地区簡易水道において安全でおいしい水の安定的な供給のために、施設の健全な維持をはかる。		
事業概要	平成23年度	焼尻地区簡易水道施設整備 白浜浄水場浄水濁度計設置 5,618千円		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	0					
平成23年度	5,618					5,618

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績	目 的 達 成 度
平成22年度	焼尻地区給水戸数	162件
平成23年度	焼尻地区給水戸数	155件

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

	チ ェ ッ ク 項 目	評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	水道水の安全で安定的な供給のため、今後も施設の健全な維持に努めること。

平成24年度 事務事業評価シート(平成23年度事務事業)

事業の概要

事務事業名	曙地区井戸削井事業		主管課名	建設水道課
			事業主体	町
事業目的	対象・意図	通年での利用者が減少している曙地区簡易水道について、施設の老朽化が著しいことから飲用井戸への切り替えを行う。		
事業概要	平成23年度	飲用井戸削井、ポンプ、浄水器、除鉄器等の設置 井戸削井 2,656千円、ポンプ等設置 2,835千円		

事業費の推移(単位:千円)

年度	総事業費	財 源 内 訳				
		国 支 出 金	道 支 出 金	起 債	その他特財	一般財源
平成22年度	672					672
平成23年度	5,491					5,491

事務事業を評価する実績(ものさし)

年度	活 動 実 績		目 的 達 成 度	
平成22年度	曙地区給水戸数	4件		
平成23年度	曙地区給水戸数	4件		

評価(チェック)【評点区分】 4 適切 3 概ね適切 2 改善の余地がある 1 不適切

チ ェ ッ ク 項 目		評 点
妥当性	・町民や社会の要求に合致しているか ・上位施策を達成するために必要な事務事業か【目的妥当性の度合】 ・行政が関与しなければならない事務事業か【公共性・公益性の度合】	4
有効性	・目標の達成度はどの程度か【達成度合】 ・目的を達成するための手段(実施方法)は有効か【手段有効度合】	4
効率性	・投入した予算や人員に見合った効果が得られているか【費用対効果の度合】 ・効率的な方法で実施しているか【同じ経費でもっと効率的な方法はないか】	4
公平性	・受益者負担は適正か ・当該事業による利益が、特定の個人や団体に偏っていないか	4

評価結果(行政評価委員会)

総合判定	今後の方向性・意見等
現状継続	老朽化が著しい水道施設の今後の維持管理を考慮すると、休止に向けて飲用井戸を整備することが望ましく、引き続き調査検討をすること。